

度、病気として、軽度、中等度、高度、重症とありますと、だいたい中等度の病気でしょうと。それよりも進みますと歯根先の近くまで骨がなくなっております。つまり黒い影が広がってきていますとこれは重症ということになります。それからもう一つ歯周病のいちばんの特徴は、痛みとか、虫歯になりますと、どんどん痛みが強くなるとか、続くとかがありますが、歯周病というのは、たとえば10年経って歯がぐらぐらしてきましたと言う人がありますので、その人に痛みというのがありましたかと聞くと、あまりありませんでしたと。歯肉は腫れましたかと聞くとときどき、年に1回とか、それぐらいの症状しか出ません。これが虫歯だと、病気になってきますとどんどん痛みが出ますけれども歯周病というのはそういうことが起こらないんですね。その一つとしてここにこんな大きな骨の吸収があります。それはこの範囲をよく見ますとうんと腫れてくる訳です。こういうふうには腫れてくる時はこれはもう痛みが出ます、とても痛くて一晩先生眠れませんでしたと。で、歯医者に来ますと。じゃ、ここんところを切開しましょうと切ります。ここんところにはもう膿瘍といいまして、膿のかたまりがあるんですね。

これはX線写真ですけど歯の根の先まで病気が起こっておりますから、ここに歯周病の強く起きた症状の強いところの元があります。そのところが腫れて症状が出てきたというときには、これはもう痛くてかないません。ということで歯医者さんに訪れるとこういう時は、もうですね手遅れということになります。ですから、やはり痛みがなくても、かならず歯周病という病気の場合には歯医者さんに定期的に通う方がよいです。たとえばおかしいな、血がでるようになったな、とかあるいは、歯石を取ってくれということでもいいですからそういう形で、かならず歯医者さんへ伺ってくださいよということになると思います。こういうふうになってからでは少し手遅れということ、つまり急性的な症状としての歯周病もあります。専門的にはこれは歯周膿瘍と言います。年齢的に歯周病は成人病であると言いますが、確かに成人病なんですね。歯周病で歯が抜けていく数を見ますとだいたい歯周病というのは年齢と共に進みます。始まりは30歳の後半ですね。どんどんどんどん年齢的に進みますと、このように歯が抜けていく数が増えるということです。ですからたとえば30才から40歳になったらもう歯周病が自分に起こっているかどうかということを定期的にみなさいということで、歯医者さんに行きなさいと言われていた由縁は、やはり歯周病は年をとるほどどんどん増えますよということが、ここでははっきり表れているということです。じゃ、歯周病というのは皆さん今までですと年をとればなりますよと言うけれども、先程私、年をとってもならない人もありますよと。若い人でも歯周病に早くなってしまう。いったいなんでしょうかと、これは年齢ではない。あるいは、自然に、老化が起こすのではないんだと。やっぱりいちばんの元は何かと言いますと、これは私共の歯周病学の研究、40年くらい研究してようやく解ってきたんですけども、ここにあります菌なんですね。病気を起こす菌がある。その菌というのは実は、歯垢といまして、歯のあかと書くんですね。歯垢というものの元になるわけです。それには2種類あります。大きく分けると、一つは好気性菌ですね。好気性菌と嫌気性菌というものの、いちばん歯周病の起こす元になるものは、好気性菌ではないんです嫌気性菌なんです。

嫌気性菌というのは実は、酸素をあまり好まないのです。好気性菌というのは酸素を好みまして、ですから健康の人でも口の中にいます。つまり健康でも好気性菌はおります。ですけど歯周病になりますと嫌気性菌が増えてくるということは、そういう環境にある。すなわち先程言いましたように、隙間が広がってどんどん広がって下へ行きますから隙間の底というのはこれは嫌気性です。嫌気状態でありますからそういう所でしか菌が増えないわけです。逆にその菌が増えてくるのが嫌気状態であるということが歯周病であると。あるいは歯周病が進んでいるという目安になるということです。そういういろいろ研究をしますとだいたい菌が何種類か、15種類くらいあり

ますが、そのうちこれらの菌が歯周病を起こす菌であるということを、この40年くらいの研究でようやく世界的に認められたということです。ですから歯周病はちゃんと原因があって、その嫌気性菌というものの集団が歯周病を起こすんだということにつながりますから、たとえば若い人でも先程私になるといったのは、それはまあいろいろ遺伝的な問題も関与しますが、その菌が増えてくるから、あるいは菌の排除する処置ができないということです。ところが年をとっても歯周病にならないという方は、もちろん体質というかそういう遺伝的な問題もありますけれども、それを定期的に自分が菌の病気を起こす元を、つまり歯石を含めたものをきちっと口から排除するという処置をされている。つまり歯医者さんに行って定期的に治療することによって歯周病は予防、再発を防止できるとあるいは進行を食い止めるということにつながっていくということになる訳です。とにかく歯周病になりますと、嫌気性菌、酸素を好まないこのような菌が増えてくるから歯周病が再発し、進行する。決してこれは自然に起こるものではないんだ、年をとれば自然に起こるものではないんだと、ということがまずいちばん認識して頂くこのポイントだと思います。これはですね、歯周病が進みますとこのように歯のまわりにプラーク、歯垢がくっつきます。ですから歯医者さんに行って歯石を取ってくださいというのは実はもちろんこれを取るということは清潔になるということだけではなくてここに歯石のまわりにこういうドローとしたものがついています。これが実はプラークなんです。これは細菌のかたまりです。これはどんどんどんどん増えてきます。つまり嫌気性菌が増えてくると、この下に入り込んでいきますから歯周病が進むということです。ですからこれを歯周病の元になるプラークといっしょに歯石を取ることが大切だということですね。これが歯石の状態です。非常に歯石がたくさんついているという写真をちょっと皆さんにお見せします。そうすると、ついているところというのはかならずやはり歯肉が退縮しておりまして、そして歯周炎が進んでおりますねということが、ちゃんとここで理由になっている訳ですね。で、それじゃどんな時に歯医者さんに行った方がいいかということを、これはいちばん皆さんや知り合って頂きたい一つですが、歯肉というものが赤紫に変わります。健康な歯肉を鏡で見ただくと珊瑚色という色で、非常にピンク色の強い珊瑚というきれいなものがありますね、あの色を想像してもらえばいいです。それが赤とか紫これはだいたい充血性だと赤になりますね。うっ血性だと紫になります。とにかく両方入り混じりますから充血性も、うっ血性も入り混じりますからだいたいこういう色のものになってくることが、いちばんの最初の病気のはしりです。まず色を見て頂きたい。それから次がですね、歯磨きの後に必ず血が出てくるとことは、100人のうちそうですね90名くらいでしょうかね。

必ず歯を磨くと血が出るんですよ。どうしたらいいんでしょうとか、たとえば物を食べたら血が出るようになりましたというのはどうでしょう、ということはこの症状が非常に主訴が多いということです。それから歯とはぐきの境目を押すとネバネバしたものが出るとか、非常に口臭とかというものを気にしまして、たとえばお年をとってきますとですね孫におじいちゃん、おばあちゃん、口が臭いのでってというのがいちばんきくようでございます。息子とか奥さんに言われても、いや俺はないとがんばるけど、孫に言われるともういちもくさんに来院するということで、孫に嫌われるということが私も含めましてですね、大変つらいことでございます。そういうことでよく口臭というのが実は気になるということがあります。この口臭というのがここにありますがこれは非常にイコールだと思います。つまり口臭というのは胃が悪いとか、他の体からくるのではなくてたいていは虫歯、あるいはネバネバしたもの、実は排膿といってうみなんですね。つまり膿とは何かというと、今言った病原菌が増えてきますね。そうするとそれに応じて生体というのは白血球というものをいっぱい出しますから、その白血球との戦いをやる訳です。その死骸ののかたまりが膿と